

## 八尾市社会福祉施設検討会議（第1回）

- ・日時:平成19年5月30日(木)14:00～15:30
- ・場所:市役所本館401会議室
- ・出席:委員6名(学識経験者1名、部局長5名)、幹事3名、事務局8名

### 【議事次第】

1. 本会議の趣旨について
2. 本会議の公開・非公開について
3. 八尾市における保育所の現状について
4. 課題整理

### 【議事概要】

#### 1. 本会議の趣旨について

- ・ 事務局より資料にもとづいて説明。

#### 2. 本会議の公開・非公開について

- ・ 八尾市公文書公開条例第6条第4号に該当するため、委員総意で会議は非公開と決定した。

#### 3. 八尾市における保育所の現状について

- ・ 事務局より資料にもとづいて説明。

#### 4. 課題整理について

- ・ 事務局より資料にもとづいて説明。

#### 5. 質疑応答

委員

- ・ 保育所の待機・保留児童は、どのように過ごしているのか。

委員

- ・ 認可外保育施設に行った人は待機児童に入っていないのか。

事務局

- ・ 待機・保留児童に関する追跡調査はしていないが、申込書の内容や窓口での相談でお伺いしている範囲では、認可外保育施設に預けている、祖父母にみてもらっている、仕事に行きたいけれど行けないので仕事をやめた、もしくは仕事を減らしたという人がいる。中には職場に連れて行くという人もいる。
- ・ 簡易保育施設にあっ旋した児童は待機児童には含まない。簡易保育施設は0～1歳

児が対象で、総定員は55名だが、待機児童がいる家庭の自宅や職場から遠く、利用できないこともある。

#### 委員

- ・ 平成17年3月から19年3月の2年間で、龍華町1～2丁目の人口は約1,300人増となっているが、これは市外から転入か、それとも市内の異動か。
- ・ 今後、JR久宝寺駅前に約1,500戸の分譲マンションが建つということだが、購入層がどこにあるのかということが判れば、保育需要も予測しやすい。その辺のことも分析する必要があるのではないか。

#### 事務局

- ・ 今まで八尾市の人口は減少傾向だったが、ここ2年若干微増となっている。今までの減少傾向に比べると、平成19年で千人くらい増えている状況である。しかし、その要因が龍華町1～2丁目の2つの物件だけかどうかは分からない。
- ・ すでに建っているマンションに関していえば、若い年代の方が多く、未就学の子どもがいる世帯がかなり多いとみている。しかし、約1,500戸のマンションについては、販売価格も幅が広いと思われるが価格等が不明であり、予測はできない。

#### 委員

- ・ マンション建設の事業者と話をしたことがあるが、今後は子育て世代でもできるだけ長く住んでいただけるようにする、また、若い家族が購入できるような販売価格を採用するという話だったと思うが、物件の詳細は未定である。
- ・ 認可保育所だけでなく、認可外保育施設を活用した事例に関する資料もお願いしたい。

#### 事務局

- ・ 次回までに、活用事例を調べて資料として提示する。

#### 委員

- ・ 八尾市を単なる通過地域とするか、長くずっと暮らす地域にするのか、それによって八尾市の未来像をどう描くかということも変わるのではないか。これからマンションが建つわけだが、現状でも待機児童がこれだけいる。しかも、年度途中になると入所選考区分のA～C区分で入所できない児童が多いということで、どう対処するのか早急に検討していかなければならない。
- ・ また、認可外保育施設の活用、保育所の分園設置という方向があるが、分園の可能性はどの程度あるのか。分園は中心保育所とのネットワークがあり、なにかとメリットがある。保育施設間のネットワーク化も課題である。

#### 委員

- ・ 保育所入所選考区分のA～Eの基準は市によって違うということだが、入所できなかった児童はどの区分に該当するのか。また、この八尾市の独自の基準が今の時代にあっているかという点において、どう認識しているのか。
- ・ 財源については、従前の国庫負担金に該当する部分は所得譲与税と地方交付税で補填しているが、今後の保証はなく、そうなれば公立保育所民営化の方向は正しいと思うが、今後の考え方も聞きたい。

#### 事務局

- ・ 平成19年4月1日現在で入所できなかった児童の総数は402名である。平成18年のデータでは、最も多いのはD区分、続いてC区分とE区分だが、A区分とB区分も存在する。
- ・ 八尾市の独自の基準については、児童福祉法の「保育に欠ける」という部分をどう解釈するかにかかっている。待機児童の基準をC区分としていることはゆるいという考え方、それでは今の時代になじまないという両方の考え方がある。
- ・ 子どもを預けられないから仕事に行きたくても行けないという人がD区分またはE区分になるが、なんらかの仕事に行かなければならない、仕事に行きたいという人は、すべて入所できるようにするのが本来の姿ではないかと思う。

#### 幹事・事務局

- ・ 平成15年の児童福祉審議会では、保育所待機児童の解消と多様な保育ニーズにこたえていくため、複数の公立保育所の民営化に取り組んでいく必要があるという提言をいただいた。平成16年の社会福祉施設検討会議で財源的な見通しも含めて5箇所の保育所、亀井、久宝寺、高安、桂、安中東を選定し、今まさに民営化を推進しているところである。われわれとしては公立保育所を全部なくしてしまおうとは全く考えておらず、公立保育所の役割は当然あると考えている。5箇所の公立保育所民営化の完了までに、まだ数年かかるが、今後の財源の見通しをたてる中で、効率化だけではなく、子育て支援、保育サービスの充実を図りたいという視点から民営化をすすめている。

#### 委員

- ・ 今までの公立保育所の保育運営費と同じ額が、そのまま一般財源化されたのか。

#### 事務局

- ・ 今のところ、従来の保育所運営費国庫負担金の額に相当する額が交付されている。地方交付税の基準財政需要額と収入額の差で、この差が小さければ当然その額は圧縮され、将来的にその額が保証されるという意味ではない。

#### 委員

- ・平成18年度当初で待機児童が104名、年度途中からの入所希望者についてはほとんど対応しきれていない。平成19年1月の時点ではどのくらいか。

#### 事務局

- ・待機児童が4月1日の104名から1月1日には317名、待機・保留児童にすると398名から595名に増えている。年度途中では、どこかで誰かがやめて空きができるか、定員外で若干名の入所を増やすかのどちらか以外は、入所できない状況にある。

#### 委員

- ・たとえば、年度途中に転入してくる人がいて、保育所の入所希望があっても、今の状態ではその希望を満たすことはできない状況か。

#### 事務局

- ・現在も年度途中に保育所入所申し込みがあるが、ほとんどは入所できないため、認可外保育施設を紹介するなどの対応をしているのが実状である。JR久宝寺駅前のマンションについては、1棟目は平成23年の2月、3月に一気に引越しをされてくることを想定している。

#### 委員

- ・マンション内に保育所計画はないのか。

#### 事務局

- ・定員90名の認可保育所の計画がある。しかし、これだけでは対応困難な時期がでてくる可能性もある。

#### 委員

- ・駅前のマンションのほかに、周辺地域では小規模の分譲マンションが続々と建設される可能性もある。
- ・開発担当には、小規模であっても保育所管と情報共有していくようにと言っている。大規模な物件だけでなく周辺地域全体で考えていかないと後手になってしまうため、連携を密にとってほしい。

#### 委員

- ・幼稚園の預かり保育とか認定こども園についてはどうか。

#### 委員

- ・各公立幼稚園では預かり保育をやっているが、どうしても保育所の定員問題を考えるとき、そちらも考えておかなければならない。

#### 委員

- ・ 幼稚園の入所希望はこの5年間では減少傾向で、入園希望を満たしているが、龍華幼稚園が問題となっている。教育委員会と保育所管とはどういう関係であるべきか検討していきたい。

#### 委員

- ・ たとえば、待機・保留児童の402名の中から待機児童を除く約300名は幼稚園で対応しろという議論になれば、対応が可能か。

#### 幹事

- ・ 市立幼稚園でも、現在は3時半までの預かり保育をやっているが、それでは要件が低い区分の児童しか受け入れる余地がないし、全体で19園しかないのが難しい。保育所待機児童が低年齢児に集中しているという問題もある。JR久宝寺駅あたりでは龍華幼稚園だが、定員割れではない。幼稚園の預かり保育が長くなれば、希望される人の選択肢としては広がるというレベルだと思う。

#### 委員

- ・ 市長のマニフェストに真の幼保一元化といわれているが、この検討会議ではそれは課題にはなっていないのか。

#### 事務局

- ・ 認定こども園や幼保一元化というのは別の課題になると考える。
- ・ 去年1年間、教育委員会と保育所管で検討したが、幼稚園で定員が割れているところは保育所も入りやすく、保育所の待機児童が多いところでは、幼稚園も定員を超えるという面があると思われる。幼稚園で預かり保育の延長をしても、それが待機児童の解消になるかというかなりの疑問が残る。また、部屋数を増やす、教諭を増やすなどする場合、財政投資も必要ということだった。待機児童の解消策については、保育所に着目して検討していくほうがよいということが、昨年度の検討結果と考える。

#### 委員

- ・ 今回の社会福祉施設検討会議では、平成15年12月の児童福祉審議会の答申をベースとして、無認可保育所の認可化・分園の設置を中心に議論を行うということによいのか。
- ・ 八尾市次世代育成支援行動計画の関係では、平成18年度に、平成21年度における通常保育事業の目標事業量を3,995名から4,300名に上方修正したということですが、詳細なデータはあるのか。

#### 事務局

- ・ 認可外保育施設の認可化、分園の設置を中心に、保育所創設についてもご議論いただければと考える。
- ・ 平成21年度中にこの4,300名の児童が入所可能になるようにして、保育所待機児童を解消しようというのがこの計画の考え方である。本日は詳細なデータを用意していないが、次回に資料を準備する。
- ・ 次回は6月29日(金曜日)午後2時よりお願いする。次世代育成支援行動計画の目標事業量見直しに関する資料、認可保育所の状況、認可外保育施設の活用事例の資料を整理したものなどを提示する。

以上